



年 組 名前

道新ワークシート

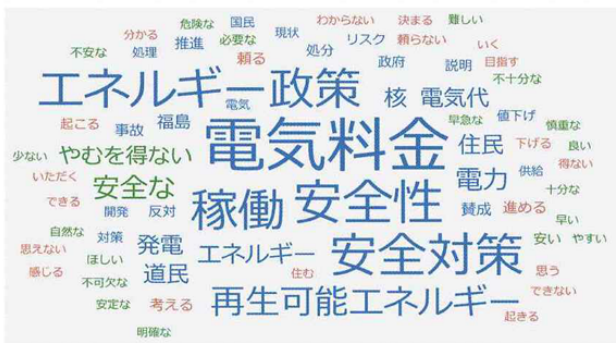
「安全」「電気料金」に関心

道民調査本社AIで分析

北海道新聞社が行った道民意識調査では、北海道電力泊原発（後志管内泊村）の再稼働や政府のエネルギー政策への考えを自由に書いてもらう欄を設けた。集まった1107件を道新が管理する生成人工知能（AI）で分析すると、安全面と電気料金への言及が目立った。AIは自由回答に横たわる感情として、再稼働賛成派から「諦め」や「暮らしの切迫感」、反対派から「不安」や「憤り」を読み取った。

（1面参照）

単語の登場回数は「安全」が約180回で最多だった。この中で「安全性が確保されれば賛成」など条件付きで再稼働を認める意見は半数超だった。



ビッグデータ分析会社ユーザイロイカル（東京）の「AIテキストマイニング」による道民意識調査（自由回答欄）の分析結果。使用頻度の高い単語ほど大きく表示される。

た。「どんな安全対策をしても不安」など反対意見も3割近くあった。「現在の対策で十分」「日本の技術なら安全」と信頼

を置く人は1割。「安全性がよく分からない」などと判断しかねている人も1割いた。

次に頻度が多かった単語が「電気料金」の約150回。この中で「電気代が下がるなら」「料金負担軽減のためなら仕方ない」など値下げを条件に再稼働を支持する意見の人が約3分の2を占めた。「電気代が安くなっても安全には代えられない」といった回答は1割に満たなかった。

回答者の感情や考え方も分析した。再稼働賛成派の回答には「仕方がない」「やむを得ない」といった記述が多く、AIは「諦め」の感情が読み取れるとした。「電気代

が高すぎて生活が苦しい」などと切迫感を訴える記述や「使えるものは使うべきだ」などの現実的判断に基づく記述の多さも特徴に挙げた。

一方、反対派の回答からは「怖い」「不安」「心配」などの感情を読み取った。東京電力福島第1原発事故を防げなかった

政府や電力会社への憤りや不信感を感じさせる記述にも注目した。

その上で、AIは泊3号機の再稼働の是非の判断に当たり「賛成派の経済的現実さを真剣に受け止めること、反対派の不安を感情論として切り捨てないことが重要」と指摘した。（牧内昇平）

AIが分析した感情や考え方の特徴

再稼働賛成派	反対派
現実主義的・実利重視 「仕方がない」「やむを得ない」 「電気代が高すぎて生活が苦しい」 「使えるものは使うべきだ」	恐怖・不安感 「事故が心配」「放射能が怖い」 「子どもの将来が不安」
いら立ち・焦燥感 「対応が遅い」「もっと早く稼働して」 「いつまでも議論している場合ではない」	福島事故への強い記憶・トラウマ 「福島を忘れるな」「教訓を生かせ」 「あの悲劇を繰り返すな」 「東電の対応を見ると」
経済発展への期待感 「ラピダス成功のために」 「北海道経済発展のため」	道徳的憤慨・正義感 「次世代に負の遺産を残すな」 「命より利益を優先するな」
他のエネルギー政策への批判 「太陽光発電の方が環境破壊」 「再エネ賦課金をやめろ」	政府・電力会社への不信 「政府は信用できない」 「住民を軽視している」

※道民意識調査の自由回答欄を自社AIで分析



年 組 名前

道新でワークシート

(1) 記事の本文に使われている次の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

① 言及

①

② 切迫

②

③ 頻度

③

(2) 傍線部「横たわる」の意味を国語辞典などで調べなさい。

そのうえで、この記事における「横たわる」の意味を考えて答えなさい。

国語辞典などでの意味

記事の中での意味

(3) この記事に関わる内容として、適切であれば○、適切でなければ × と答えなさい。

① AI は分析の結果、「安全」の方が「電気料金」よりも単語の登場回数が多いことがわかったため、安全性の方を重視すべきであると結論づけた。

② 「電気料金」を書いた人の中で、およそ 3 分の 2 の人が値下げを条件に泊原発の再稼働を支持していることがわかった。

①

②

(4) 記事の最後の①と②にはそれぞれ三字熟語が入る。その熟語が完成するように、四角の中に漢字を 1 字ずつ入れて完成させなさい。

① 切 さ

② 感 論